



大野市教育委員会たより

令和元年7月9日発行 第8号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月2日（火）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：有終西小学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：有終西小学校保護者（出席者8人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎意見交換会後の学校再編の取組みスケジュールは。

⇒ ■今年は11月末まで意見交換会を行い、各意見交換会での意見やアンケートの結果を年度内にとりまとめることとしている。令和2年度から学校数や再編時期、再編の方法などの検討を行い、学校再編計画の見直しの素案を作成する。素案が出来たときは、保護者や地域の方々に説明を行い、意見を伺う予定である。今年実施した結果は、検討するための補助的な資料として活用する。

◎市内の小規模校では、先生1人に対して児童1人の学級もある。子どもは学びやすいかもしれないが、常に1対1なので、学ぶ側（子ども）からしてみたらしんどくないのかと思う。現状のままでいいのか疑問であるが、市としての考えはどうか。

⇒ ■地区の保護者がどう考えているかがとても大事である。これまでに小規模校で意見交換会を行った際、保護者から、少人数なので先生がきめ細かに見てくれるのでありがたいという意見も聞いている。一方で、少人数を心配される保護者もおられる。総合的に意見を聞きながら学校再編を検討していきたい。

⇒ ◎主体的・対話的で深い学びづくりの説明をしてくれたが、複式学級で1人や2人の場合、どのようにやっているのか。複式学級のない学校は普通の授業で行えるが、複式学級のある学校の場合、特定の全校集会や他校との交流ができないため、不利益ではないかと思う。

⇒ ■有終西小学校の児童数は約160人と中規模校であるが、このような学校の場合、全校集会などをしたとき全員が発表できない。小規模校の場合は、全校での取組みを多くしながら、より主体的対話的な学習ができるように工夫をしていると感じている。

◎複式学級になってしまうぐらいの子ども的人数になると、学校としては小さすぎる規模だと思う。未就学児の保護者は、学校再編を早くしてほしいと思っているが、在校生の保護者は自分の子どもを地元の学校で卒業させてやりたいと思っている。学校再編をすると、在校生に何らかの負担がある。その時の子どもへのケアの方法を提示していくことが大事である。

◎自分の子どもが陽明中に上がる時、有終西の卒業生のほとんどが開成中へ行くことになり、たくさん人数のいる陽明中へ有終西の子どもが5人しか行かないことに不安があった。中学校が1校になると、さらにたくさん的人数となるので、非常に不安を感じている。

⇒ ■開成中でも有終南の子どもが大半を占める中、有終西の子どもが頑張っている姿を見ている。様子を見て限り、子どもは学校生活に慣れるのは早いと感じている。

⇒ ■小規模校の小学校の保護者のほとんどが、中学校に進級するとき不安を感じている。中学校の教員は、小規模校出身の子どもに対し配慮を心掛けている。子どもは学校生活に慣れるのが早い。それぞれが自分の居場所を見つけている。学校再編を行う際には、1年前から再編同士の学校の交流を行う。

⇒ ◎学校再編では、保護者の不安を取り除く取組みについて、十分に説明をして進めてほしい。

◎自分は市外に育ち、小学校は1学年5クラス、中学校は10クラスの中で育ってきた。有終西ではクラス数が少ないため、手厚く見てもらえると思い、安心して子どもを預けることが出来ている。しかし、子どもが少なくなり、これまで何年も継続してきたPTA活動などを見直そうという意見が出ている。仕方がないと思うが、子ど

ものために行うので、どのように持続させ伝統を守っていけるかを考えていきたい。1学年に1クラスしかないのでクラス替えが出来ない。良い、悪いがあるが、クラスで嫌なことがあった時、そのことを親や先生に言えない子にとってはつらいと思う。中学校1校、小学校2校の計画は、極端であると思った。地区に学校がないと過疎化すると思うので、市街から村部の学校へ通う再編もありかと思っている。また、子どもの教材（教科書が多く重い）の負担を減らしたり、タブレットなどのICT化を進めながら、楽しい学習を行えるようにしてほしい。

- ◎子どもは野球をやっているが、所属チームが昨年、有終東と合併し、来年は富田・有終南と合併する。人数が少なくやっていけないのは、学校も同じだと思う。再編では良い事も悪い事もあるが前進するために話をしないといけない。市街の保護者は再編に危機感を持っていない。
- ◎有終西は、子どもの数が多くも少なくもなく、ちょうど良い。中学校を考えると、再編計画は1校で600人で、多すぎると思った。部活ありきではない。その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。
 - ⇒ ■再編計画（案）の説明の時は、有終西の保護者もたくさん集まった。現在の有終西の学校教育に満足されているのであれば学校として有難い。
- ◎子どもたちの良い教育環境とは、学校教育だけではないと思う。例えば、自分が住んでいる地区には小学生が3人だが、子ども神輿はやっている。育成会は休止している。地区の人が地区の子どもを育てていく環境（地区行事など）は止めてはいけない。社会教育・生涯教育の面で、子どもが少なく育成会などが行政区ごとに出来ない状況であり、広い範囲による育成会の活動を支援する働きかけをしてほしい。育成会がなくなると、ラジオ体操や夏祭りなどがなくなり、寂しい大野になる気がする。地域住民がどうやって子どもを育てていくかの面にも、学校教育と同じぐらい光を当てていかないといけないと思う。
 - ⇒ ■意見交換会は、小中学校や保育所・認定こども園などの保護者の後、地域にも回る。地域コミュニティと学校再編は関わりがある。学校が再編されても、その地域に子どもは居る。その地域をどのように活性化していくかも考えていく必要がある。
 - ⇒ ◎最近いろいろな事件があり、子どもの安全安心の面で地域が果たす役割は大きい。そのために、生涯学習が果たす役割は重要になる。
 - ⇒ ■公民館の果たす役割は大きいと思っている。各行政区において、区の活動ができる人が少なくなってきており、行政区の統合も考えていく必要があると思う。学校再編の延長に、大野のまちづくりがある。市では、持続可能なまちを目指して、各施策に取り組んでいる。
- ◎学校は有終西校区、地区は小山地区である。小山地区の運動会に出るとしても、小山小の子どもばかりである。地区と校区の分け方を統一した方が地区になじみやすい。
- ◎学校再編に反対はしていないが、中学校1校、小学校2校の計画は急ぎすぎる感じがした。
 - ⇒ ■平成27年4月に、小学校6校、中学校2校の再編計画（素案）を策定し、その後、段階的に再編を行い、小学校2校以内、中学校2校以内にする計画であった。段階的に再編を行うと、制服や校歌など、いろいろなものが変わり、子どもや保護者に負担が掛かると考え、小学校2校、中学校1校の計画とした。
 - ⇒ ◎有終西に転校されてきた子がいて、新しいランドセルを買ったということがあった。声を掛けてもらったから、自分の子どものランドセルを譲ることができた。再編時には、そのような対応も考慮してほしい。
 - ⇒ ■ズックや体操服、ランドセルなどが違っていても、それが使える物であれば、学校の判断によるが使い続けることは可能である。しかし、子ども自身が他の子どもと違う物を使うことを嫌がる場合がある。以前、他県から転校してきた子で保護者から相談を受けたことがある。
- ◎中学校を1校にして、スクールバスで通うことになった時、各地区を回ると約1時間乗っている場合もある。そうすると、福井の中学校に通わせる保護者も出てくるかもと考えられていた。再編の際は、通学時間が短くなるよう、バスのルートを考えてほしい。
 - ⇒ ■子どもの通学の負担は減らしていきたい。現在の通学時間とあまり差がないように考えていきたい。学校再編計画の見直し（素案）では1つ1つ課題をクリアできるように検討していきたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。